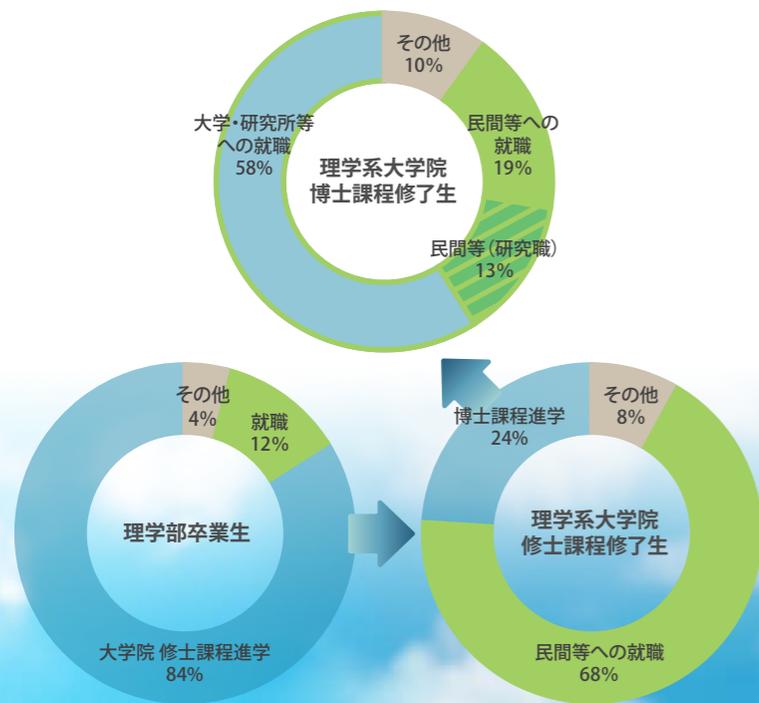


進学は「専門家」への第一歩 — 博士課程で広がる理学系人材の可能性

現代社会では、知識や技術が高度化し、それに対応できる人材が求められています。理学部では卒業生の9割近くが大学院に進学。基礎から専門まで学んだ大学院進学者は、研究機関・企業・行政など多様な分野で活躍しています。とくに博士課程修了者は、独創的な発想と専門性で、未来の科学技術イノベーションをけん引する存在として、社会から大きな期待が寄せられています。



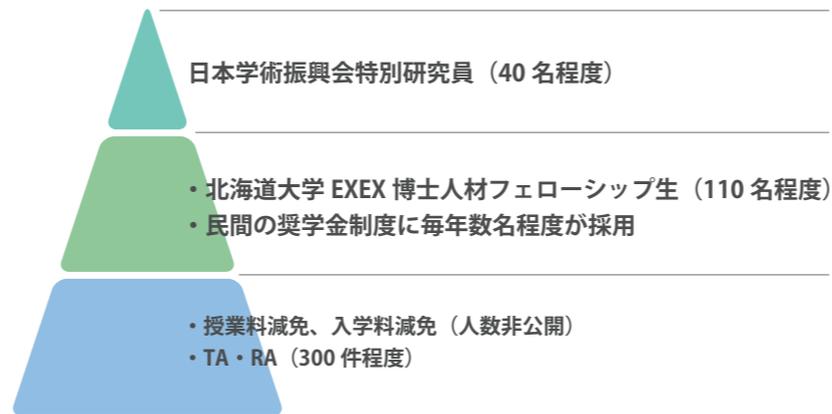
理学部・理学系大学院修了生の進路先

※その他は留学生の帰国、起業等準備、資格試験受験準備、就活など

研究に打ち込める環境を — 博士課程学生への支援制度の紹介

北海道大学では、博士課程学生を対象とした多様な経済的支援制度が整備されています。例えば日本学術振興会特別研究員や EXEX 博士人材フェローシップなど、生活費や研究費を支給する制度があります。こうした制度により、博士課程全体のうち半数程度の学生が、給付型の経済支援を継続的に受けており、安心して研究に専念しています。

また、授業料・入学料の減免制度や、TA (ティーチング・アシスタント)・RA (リサーチ・アシスタント) など、学内で提供されている支援制度も併用が可能です。これらは重複して申請できるものが多く、うまく組み合わせることで、授業料等の負担を抑えながら、生活費や研究費を安定的に確保できる環境を整えることができます。



理学系博士課程学生への主な給付型経済支援実績 (令和6年度の参考値)
在籍者数は350人程度

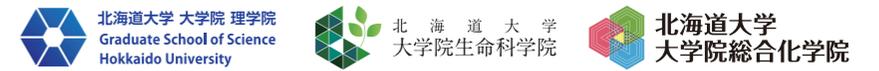
北海道大学 EXEX 博士人材フェローシップとは、博士課程学生が研究に専念できる環境を提供する支援制度で、「未来社会の開拓者」の育成を目的としています。高度な専門知識に加えて、他者と協働するための展開力、新しい社会や産業を構想するデザイン力、そして世界や地域が抱える多様な複雑な問題に、持続可能な将来像をもって取り組む総合力を育むことをめざしています。対象：博士課程、支援額：研究奨励費月額 180,000 円 研究費年間 400,000 円。その他、申請により研究費の追加支給あり。

理学部ロゴマークとパンフレットのデザインについて

このパンフレットの背景に描かれている「飾らない花々」は、それぞれ異なる魅力や可能性をもつ学生一人ひとりを象徴しています。多様な個性が集い、共に学び、成長していく…そんな理学部の姿を重ねています。このイメージは、理学部のロゴマーク「六華(りっか)」にも通じています。「六華」は、中谷宇吉郎博士の「人工雪誕生の地の碑」をモチーフに、理学部エリア(大野池前)に設置された石碑を図案化したものです。理学部の6つの専修が、それぞれの知を結晶させ、彩り豊かな知の世界を共同で築いていく姿を表現しています。知的好奇心から始まる探究心、多様な個性の交わり、そして社会へとつながる理学の力—今、この時代にこそ、その力が必要とされています。



理学部での学びを、次のステージへ — 大学院博士課程進学の手引き



AI、環境、医療、エネルギーなど、現代社会の課題はますます高度化、複雑化しています。こうした時代には、学部での学びに加えて、より深い専門性と柔軟な思考力、そして国際的な視野を身につけることが、将来の可能性を大きく広げる鍵となります。



詳細ページ

「まだ学部2年生だし、将来の話は少し早いのでは…」と思われるかもしれませんが、これから進路の選択肢を知っておくことは、これからの学びを考える上でも大きな助けになります。

理学部では、多くの学生が大学院(理学院・生命科学院・総合化学院)に進学し、自らの興味や関心を発展させながら、企業・行政・教育など幅広い分野で活躍しています。また、博士課程では、研究に専念できる経済的支援も整っています。ご子息・ご息女の学びが、より深く、より自由に、そして世界へと広がっていくためのステップとして、大学院博士課程進学という選択を、ぜひご家族で前向きにご検討いただければ幸いです。

<https://www2.sci.hokudai.ac.jp/article/21275>



大学院 理学院

未知への好奇心が、社会を変える力になる — 基礎科学を深める理学院

理学は、自然界に潜む法則や現象を科学的手法で解明する学問です。理学院は、数学・物性物理・宇宙理学・自然史科学の4専攻から成り、自然の本質を追究する基礎研究を通じて、論理的思考力と科学的洞察力を育みます。

修士課程では約130名の教員が在籍し、1学年の学生数は教員数とほぼ同程度。博士課程でも1学年約60名と、学生一人ひとりに対する丁寧な指導が行われています。幅広い分野に対応した教育と柔軟な研究環境が整い、科学リテラシーや社会に伝える力（科学コミュニケーション）も育成されます。

近年では、理学出身の博士人材が、AI・データサイエンス・半導体・金融・教育・政策など多様な分野で活躍。博士号は社会のさまざまな課題に貢献する「知の力」として注目されています。理学院は、好奇心を原動力に学びを深め、社会に還元する人材の育成をめざしています。



大学院 生命科学院

命と向き合い、未来を創る — 学際性と国際性を備えた高度人材育成の場

生命科学院は、理学部生物科学科や薬学部をはじめ、農学部・水産学部・他大学など多様な学生が集う学際的な大学院です。生命科学専攻、臨床薬学専攻、ソフトマター専攻の3専攻を擁し、基礎から応用まで幅広い領域を横断的に学ぶことができます。

研究指導は複数教員制で、修士課程では教員と学生が1対1に近い密な関係を築ける少人数体制です。生命倫理や知的財産、英語での発信力育成などもカリキュラムに組み込まれており、研究能力に加え、社会で活躍するための総合力を育みます。

また、国内外から多くの留学生が在籍しており、日常的に異文化と接しながらグローバルな視野を育てることができる点も大きな特長です。海外での研究活動を経験する学生も増えています。卒業後は、研究職に限らず、製薬、食品、環境、化粧品、行政、教育、国際NGOなど、さまざまな分野で多くの修了生が活躍しています。



大学院 総合化学院

化学の力で、社会をより良く — 理学と工学をつなぐ総合化学院

化学は、私たちの生活を支える「見えないインフラ」とも言える存在です。総合化学院は、理学部化学科と工学部応用化学科の教員が連携して運営する、全国でも珍しい「総合化学」の大学院として2007年に設立されました。

物理化学・有機化学・無機化学・生物化学などの基礎に加え、プロセス化学や応用化学といった幅広い分野を自由に学べるカリキュラムが整っています。卒業生の約8割が大学院に進学しており、修士・博士課程を通じて高度な専門性と研究力を育んでいます。

教育は、理学・工学両研究院や、触媒科学研究所、電子科学研究所などの第一線研究者が担当。博士課程では、理研や産総研などの外部研究機関とも連携しています。さらに、短期留学、国際プログラム、留学生との共同研究など、国際性を育てる機会も充実。物質科学と社会を結ぶ実践力を備えた人材を育成しています。